

2026年4月1日

報道関係者各位

株式会社キャピタル・アイ

◎BEST DEALS OF 2025 を選出：NTTF がトリプル、日産がダブル受賞

キャピタルアイ・ニュースは1日、キャピタル・アイ Awards “BEST DEALS OF 2025”を発表した。引受証券会社と機関投資家へのアンケートをもとに編集部審査を加え、2025年度の債券・株式発行市場における優良案件・発行体を選出した。

2025年度は、“トランプ関税”による混乱で始まり、解散総選挙と新政権の誕生、イラン攻撃と、激動といえるなかでファイナンスが行われた。NTTファイナンスは、普通社債 Issuer、外債 Deal、外債 Issuer でトリプル受賞。日本を代表する発行体として存在感が際立った。日産自動車は業績不振からの復活のため、ユーロ円 CB とドル債、ユーロ建て債を同時に発行。外債部門と CB 部門で特別賞を受賞している。

普通社債部門では、金利のある世界に対応した国内企業初の三菱商事による TONA 連動の変動利付債が受賞。同じ TONA 連動債は、非居住者円債部門の Issuer で受賞したクレディ・アグリコルが先んじて円債初の案件をローンチしている。

関税ショックからの復活の象徴的な案件として選出したのは、普通社債特別賞の大日本印刷の3本立て債と、5月の10年物地方債第1陣の7銘柄だった。財投機関債等では、毎四半期初に適正水準を示し続けた日本政策投資銀行が Issuer で受賞した。非居住者円債の Deal ではポーランド共和国の4本立て債、証券化部門では住宅金融支援機構のグリーン MBS を選出した。

新規公開株式は、3度目の上場となった SBI 新生銀行、既公開株式ではインド市場での強みを訴求したスズキ、J-REIT では、国内最大の日本ビルファンド投資法人が Deal と Issuer のダブル受賞となった。CB は 6000 億円の日本製鉄を選出した。

以下が授賞リスト(〈 〉内は主幹事/株式のグローバル案件はグローバル・コーディネーター、日付は条件決定日/決議日)。

普通社債部門

BEST DEAL OF 2025

第 87 回 三菱商事債 7 月 3 日 変動 5 年 300 億円
〈三菱 UFJ モルガン・スタンレー/SMBC 日興/みずほ〉

国内企業で初めて TONA を参照した変動利付債。日銀の利上げや金利の先高感が意識されるなか、変動債を望む投資家の声に応え、ニーズを顕在化させるシンボリックな案件だった。プライシング手法などが後続案件の基準となり、この市場の形成と拡大に貢献した。

特別賞

第 7 回 大日本印刷債（サステナビリティ・リンク・ボンド） 4 月 24 日 5 年 400 億円
第 8 回 大日本印刷債（サステナビリティ・リンク・ボンド） 4 月 24 日 7 年 200 億円
第 9 回 大日本印刷債 4 月 24 日 10 年 400 億円
〈みずほ/野村/大和/三菱 UFJ モルガン・スタンレー/SMBC 日興〉

”トランプ関税”による混乱で調達を見送る企業が相次ぐなか、ほかに先んじてサウンディングを開始し、総額 1000 億円を起債し、マーケットを立て直した。5 年・7 年債は業界初のサステナビリティ・リンク・ボンドであることも投資家の関心を惹きつけた。

BEST ISSUER OF 2025

NTT ファイナンス

国内外で 3 兆 5000 億円規模を調達した日本を代表する発行体。国内では 2 回・総額 3700 億円を起債し、ボリュームプレミアムを払う一方、大量発行によるセカンダリーへの影響を軽減する運営を行った。日銀による利上げと金利先高観が意識されるなか、1 月の 4 本立て債では、供給が限定されていた 10 年ゾーンで 1100 億円のディールを実現している。

財投機関債等部門

BEST DEAL OF 2025

該当なし

BEST ISSUER OF 2025

日本政策投資銀行

14 本・総額 3950 億円を発行。毎四半期の最初に登場し、まとまった額でその期の財投機関債の適正水準を示し続けている。同セクターの他の発行体が少額でタイト化を追求し、地方投資家に偏る構成が多いのとは一線を画しており、スプレッドにこだわる大手投資家との対話もしっかり行う。その姿勢が幅広い層から支持されている。

地方債等部門

BEST DEALS OF 2025

第 5 回 埼玉県債	5 月 9 日	10 年	250 億円
〈SMBC 日興/みずほ/三菱 UFJ モルガン・スタンレー〉			
第 267 回 神奈川県債	5 月 9 日	10 年	150 億円
〈SMBC 日興/大和/三菱 UFJ モルガン・スタンレー/東海東京〉			
令和 7 年度第 1 回 長野県債	5 月 9 日	10 年	350 億円
〈みずほ/大和/野村〉			
令和 7 年度第 2 回 兵庫県債	5 月 9 日	10 年	100 億円
〈野村/SMBC 日興/岡三〉			
令和 7 年度第 1 回 奈良県債	5 月 9 日	10 年	100 億円
〈大和/みずほ/野村〉			
令和 7 年度第 3 回 福岡県債	5 月 9 日	10 年	100 億円
〈三菱 UFJ モルガン・スタンレー/ゴールドマン・サックス/みずほ〉			
令和 7 年度第 2 回 大阪市債	5 月 9 日	10 年	200 億円
〈大和/SMBC 日興/三菱 UFJ モルガン・スタンレー〉			

5 月の 10 年債の第 1 陣で、“トランプ関税”から立ち直るきっかけとなり、当年度の帰趨を決めた銘柄群。3 月までの需給悪化を受けて 4 月債で 6bp ものワイド化を行って国債カーブ+15bp となったが、関税ショックがそれを打ち消して流通実勢が拡大した。5 月は新発債での再修正が必要になったうえ、大量発行月であり、同日と後続の円滑な消化が可能な水準を探った。その結果、前月比プラス 5bp となる+20bp を見いだした。需給が改善し、翌月から 9 月までタイト化が続いた。

BEST ISSUER OF 2025

該当なし

非居住者円債部門

BEST DEALS OF 2025

第 24 回 ポーランド共和国債	2 月 6 日	3 年	1169 億円
第 25 回 ポーランド共和国債	2 月 6 日	10 年	118 億円
第 26 回 ポーランド共和国債	2 月 6 日	20 年	202 億円
第 1 回 ポーランド共和国債（グリーンボンド）	2 月 6 日	5 年	627 億円

〈大和/野村/SMBC 日興〉

4 本で総額 2116 億円は史上最大のサムライ債だった。ロシアとウクライナの隣国として地政学リスクへの懸念はあったものの、外債からのレラティブバリューや絶対値妙味が好感された。5 年債は発行体初のグリーンボンドであり、ESG 投資のニーズも取り込んだ。

BEST ISSUER OF 2025

クレディ・アグリコル

フリークエントイシューアとして継続的にサムライ債市場にアクセスしている。当年度は 2 回で総額 2000 億円を調達。いずれもシニア債と非上位シニア債、劣後債という 3 つの異なるアセットで、幅広い投資家層のニーズに対応した。5 月のディールでは国内企業に先んじて、公募円債市場として初の TONA 変動利付債を発行し、後続案件のベンチマークになるとともに、マーケット拡大に寄与した。

証券化部門

BEST DEAL OF 2025

第 1 回 住宅金融支援機構グリーン MBS 11 月 21 日 35 年 200 億円

〈野村/SMBC 日興/みずほ〉

国内公募の RMBS として初めてのグリーンボンド。月次債に参加しない投資家が ESG ニーズで新規に購入するなど、証券化市場と ESG 債市場の双方の拡大を実現した。発行額の最大化を狙って超過担保を設定せず、発行体と同等の格付け(AA+:R&I/A+:S&P)で起債している。

BEST ISSUER OF 2025

該当なし

外債部門

BEST DEALS OF 2025

NTT ファイナンス ドル債	7 月 9 日	2 年	12 億 5000 万ドル
NTT ファイナンス ドル債	7 月 9 日	3 年	15 億ドル
NTT ファイナンス ドル債	7 月 9 日	5 年	25 億ドル
NTT ファイナンス ドル債	7 月 9 日	7 年	25 億ドル
NTT ファイナンス ドル債	7 月 9 日	10 年	25 億ドル
NTT ファイナンス ドル債	7 月 9 日	変動 3 年	5 億ドル
NTT ファイナンス ドル債	7 月 9 日	変動 5 年	5 億ドル

〈モルガン・スタンレー/JP モルガン/シティグループ/BofA/ゴールドマン・サックス/BNP パリバ/バークレイズ/野村/SMBC 日興/みずほ/大和〉

NTT ファイナンス ユーロ債	7 月 9 日	3 年 8 ヶ月	10 億ユーロ
NTT ファイナンス ユーロ債	7 月 9 日	8 年	15 億ユーロ
NTT ファイナンス ユーロ債	7 月 9 日	12 年	15 億ユーロ
NTT ファイナンス ユーロ債	7 月 9 日	変動 2 年	15 億ユーロ

〈モルガン・スタンレー/JP モルガン/シティグループ/BofA/ゴールドマン・サックス/BNP パリバ/バークレイズ/野村/SMBC バンク/みずほ/大和〉

BEST ISSUER OF 2025

NTT ファイナンス

NTT データグループの TOB 資金のリファイナンスのための 7 月の外債は、ドル・ユーロ建ての 11 本で総額 2 兆 6000 億円規模に上り、本邦発行体だけでなくアジアネームの 1 回の起債で過去最大のディールだった。高い知名度とクレジットを活かし、大型案件を限定的な新発プレミアムで完遂したという点で秀逸であり、外債部門のベストディールとなった。2 月の案件では初のフォルモサドル債とポンド債に加え、ユーロ建て債で登場。欧州市場でのプレゼンスの高さを利用し、1 本ごとの発行額を抑え、全ての通貨で調達コストを低減させた。

特別賞

日産自動車ドル債	7 月 10 日	5 年	10 億ドル
日産自動車ドル債	7 月 10 日	7 年	7 億 5000 万ドル
日産自動車ドル債	7 月 10 日	10 年	12 億 5000 万ドル

〈モルガン・スタンレー/みずほ/シティグループ/BofA/HSBC〉

日産自動車ユーロ債	7 月 10 日	4 年	8 億ユーロ
日産自動車ユーロ債	7 月 10 日	8 年	5 億ユーロ

〈モルガン・スタンレー/みずほ/SMBC 日興/BNP パリバ/ソシエテ・ジェネラル〉

販売不振と構造改革で巨額の損失を出し、「Re:Nissan」に向けた案件。まずユーロ円 CB で 2000 億円を調達し、ほぼ同時のドル・ユーロ建てでの 5 本立て債は発行体が“復活”するために重要な案件だった。投資不適格級 (Ba2:ムーディーズ/BB:S&P/フィッチ) に格下げされたところで、再建計画などのクレジットストーリーを訴求し、ドル債を 30 億ドル、ユーロ建て債を 13 億ユーロのディールに仕上げた。邦貨換算で総額 6600 億円規模の調達に成功するとともに、ハイイールド市場で大型案件が可能であることを示した。

新規公開株式部門

BEST DEAL OF 2025

SBI 新生銀行 12 月 17 日上場 公募・売出：2 億 2200 万株 3219 億円
〈野村/SBI/みずほ/ゴールドマン・サックス/SMBC 日興/BofA〉

当年度最大の総額 3219 億円。3 度目の上場で、SBI グループ加入による成長性などが評価された。仮条件の提示段階で、QIA や M&G、ブラックロックら海外勢が過去最大規模の関心を表明し、最終的には幅広い投資家から旺盛な需要があった。

既公開株式 公募・売出部門

BEST DEAL OF 2025

スズキ 4 月 7 日 売出：9570 万 9000 株 1427 億 9782 万 8000 円
〈SMBC 日興/みずほ/野村〉

政策保有株式の縮減と、株主構成の能動的な変更を目的に、東京海上日動火災保険と損害保険ジャパンが、保有株式を全量売却した。トランプ関税による市場変動が大きいなかだったが、強みのインド市場を訴求し、1400 億円規模のオフリングを執行した。株価も堅調に推移。

投資法人投資口 発行・売出部門

BEST DEAL OF 2025

日本ビルファンド投資法人 1月7日 公募：15万7200口 223億9974万2400円
〈野村/大和〉

BEST ISSUER OF 2025

日本ビルファンド投資法人

J-REIT 最大の時価総額を有し、後続案件の道しるべとなる調達により市場での存在感を高めた。7月と1月に公募増資を行い、各決議時点でNAV倍率が1倍を上回る水準のなか、オフィス市場の好調さを見越した。内部・外部成長の両輪でEPUとDPUの向上を目指す戦略などが好感され、投資家から高い評価を得た。

1月の案件は、取得した日本橋本町M-SQUAREが“東京都心・築浅”物件で、高稼働率、賃貸収入の増加などが訴求し、旺盛な需要を獲得した。

転換社債型新株予約権付社債部門

BEST DEALS OF 2025

日本製鉄 ユーロ円 CB 2月24日 2年11ヵ月 3000億円
日本製鉄 ユーロ円 CB 2月24日 4年11ヵ月 3000億円

〈野村/ゴールドマン・サックス/メリルリンチ/SMBCバンク/モルガン・スタンレー/みずほ〉

国内最大の6000億円を発行。金利の上昇局面にあって、最終利回りを仮条件レンジとして設定する日本物では稀な手法を採用し、発行体のアップ率追求と希薄化抑制ニーズに応えた。さらに、デルタプレースメントを並行して、発行額を500億円積み増した。

特別賞

日産自動車 ユーロ円 CB 7月7日 6年 2000億円

〈みずほ/メリルリンチ/モルガン・スタンレー/シティグループ/SMBCバンク〉

総額45億ドル相当のドル・ユーロ建て債を同時に決定し、本邦で初めてユーロ円CBと同時に起債した。発行総額は当初1500億円だったが、旺盛な需要を受けて、ローンチ翌日に2000億円に増額した。表面利率は1.0%として、転換プレミアムを高めた。

■ キャピタル・アイ Awards とは:

当年度の資本市場でなされたファイナンスのなかで最も優れた案件は何か、発行体は誰か、普通社債、財投機関債等、地方債等、非居住者円債、外債(日本企業による海外発行債)、証券化、新規公開株式、既公開株式、投資法人投資口、転換社債型新株予約権付社債(CB)の各部門にわたって引受証券会社と機関投資家へアンケートを実施。回答をもとに、市場に円滑に受け入れられたか、市場にとって意義があったか、市場の発展や活性化に資するかなどの観点で編集部が選出する。

◆ 株式会社キャピタル・アイについて

所在地: 東京都港区六本木 1 丁目 8-7 MFPR 六本木麻布台ビル

設立: 2006 年 7 月

資本金: 8 千万円

主な事業の内容: 金融市場に関するオンライン情報サービス(ニュース及びデータベース等)

【債券・株式資本市場のプロフェッショナル向けリアルタイム情報サービス「キャピタルアイ・ニュース」を提供しています。債券分野では普通社債、財投機関債、地方債、政府保証債など債券発行市場を幅広くカバーし、クレジット市場や CP 市場などのニュースも配信しています。株式分野では株式、不動産投資信託証券、転換社債型新株予約権付社債のほか、M&A 関連などを報道しています。】

ホームページ <https://c-eye.ne.jp>(契約者サイト) / <https://c-eye.co.jp>(公開サイト)

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社キャピタル・アイ

編集部: 菊地健之 03-6824-7531